

## 英国研修を終えて

竹川晴菜（時習館高等学校2年）

私はこのSSH海外研修で得た貴重な経験が2つある。1つ目は事前研修で研究の難しさを知ったことだ。もちろん研究は難しいものというのは知っていたが、実際にやってみると私が思っていた以上だった。まず研究の独自性を見つける難しさを初めて知った。まだ誰も調べていないことを調べるというのはとても難しくまた見つけにくいと初めてわかった。

またうまく研究の結果が出ないことにとっても苦労した。こうすればこういう結果が出るだろうという仮説とは全く違う結果が出たり、その仮説と逆の結果が出たり、データがとれる日もあれば、全くとれない日もあり、思うように研究が進まなかった。うまくいかない理由を考えて、工夫してもうまくいかず、研究とは本当に根気がいるなと痛感した。

研究結果の伝え方にも苦労した。私達は内容を知っているが、聞く人は私達が何をやっているのかなど知っているはずがない。せっかく研究がしっかりしていても伝わらないと言うことは、とても残念なことであるとわかった。聞く人に伝わって初めて研究の成果が出るのだと知った。

どれも思っていたのと実際にやってみるのではかなり違って、研究をすることがいかに難しいかが分かった。私は将来研究職に就きたいのでこの経験は自分にとってとても大きな刺激となった。



【セントポールズ女子校】

中力が続いている

た。しかし一方で、たくさんの教科を教えてもらえることで、専攻科目のみを教えるのに比べ、たくさんの教養を得られるという日本の教育の良さにも気づかされた。

海外でがんばっている同世代をみて私も刺激を受けがばろうと思えた。またこのような授業体制をとっている分、研究発表での質問も活発で、負けてられないなと強く思った。

私にとって初めて知ったことが多く、とても貴重な経験をたくさん得ることができた。SSH海外研修に参加したことにより、より前向きに自分の進路を考えることができ、本当に参加して良かったと思う。この経験を将来に生かしていきたい。



【合同研究発表会 ポスター発表】

2つ目はイギリスの同年代の人達の生活を知ったことだ。日本とは違い、高校から多くの科目を選んで授業をうけていて大学のような感じだった。授業も少人数の約20人以下で行われており、先生と生徒が活発に話し合い、質問し、意見を出していた。授業に対して受動的なことが多い日本とは対照的に、生徒がとても積極的だった。少人数だからこそ、そのような環境が作れるのだなとうらやましく思った。生徒自身が楽しんで勉強することができるのは大切なことだと思う。専攻科目があるため、専門的な知識を学び、高校生の段階で高度な研究ができるのは素晴らしいと思った。また、授業時間も日本と違い30分で、生徒の集

I got lots of valuable experiences through the project. I realized some differences between schools in the UK and schools in Japan. The British students were so active in the class. Many students raised their hand to speak. I was inspired by their attitudes and I decided to study harder.

I am so happy to participate in the project. I will never forget the experiences.